

今回はFRHアドバイザーによる指導及び活動に関わる会議の報告です。

## ◇ アドバイザーの若生幸也さんを囲んで、検討会議を行いました！

日時： 令和3年11月16日（火）13:30～15:20

場所： 関高等学校 校長室

参加者： 富士通総研株式会社（FRHアドバイザー） 若生幸也 氏  
関市市民協働課 衣斐七海 氏 関市市民活動センター 北村隆幸 氏  
岐阜県教育委員会学校支援課 大西 護 氏 磯見拓也 氏  
関高等学校職員（校長・教頭・学年代表・研究推進部） 代表生徒

本校の探究活動に関わる「現状と課題」を報告し、その上でアドバイザーや外部機関の代表、県教育委員会学校支援課、本校担当職員とが、今後の探究活動のあり方を検討する会議を約2時間にわたって行いました。冒頭、本校教員による事業報告、生徒代表のプレゼンテーション（中学生模擬国連会議・ほらどキウイプロジェクト）を実施しました。

若生さんからは、「高校生がすでにロジ・サブともにこなすとは驚きだ」（模擬国連）、「地元産品を生かした商品を開発し販路を広げつつあるとは素晴らしい」（ほらプロ）と、高い評価をいただきました。役所用語でロジとはロジスティクスの略で「手配・準備」、サブとはサブスタンスで「実質・中身」のことを指します。探究活動をまちづくりの中で実践していくためには、ロジ・サブをこなす力を身に付けることが必要であり、そうした力をどのように培うかが、課題として一層明確になったと言えます。

SGH事業が始まって8年目を迎えた本校では、意欲的に探究活動に取り組む生徒の姿が毎年のように見られ、内容も年々深まる傾向にあります。それというのも、「高校生の活動を受けとめて支える環境・関係づくりがうまくいっているから」（若生さんの指摘）であり、関市やNPO「ぶうめらん」をはじめとする地域の方々の尽力の賜物といえます。現在、整いつつある地域連携のあり方を、さらに有効で継続的なかたちにするための方策に関しても、建設的な意見が複数出されました。



本校教員による事業報告

## ◇ 関市第5次総合計画とまちづくり、関高校の探究活動

関市が自治基本条例第14条第1項に基づき策定した第5次総合計画は、関市のまちづくりの指針となる計画であり、2018年から2027年までの10年間の長期的な政策の方向性を示しています。その中には「若者活躍」が取り上げられており、高校生のまちづくりへの参加の重要性に関しても明記されています。



生徒による研究報告

現在、関市では、第5次総合計画後期に向けての準備が進行中です。「SDGsとまちづくり」（1年次）「くらし・いのち・きずなのSDGs」（2年次）をテーマに、地域におけるSDGs実現をめざす関高校としても、公共政策を専門とする若生さんのアドバイスを受けながら、総合計画後期に向けた提言をめざし、活動を続ける予定です。